部品の汚れを簡単・綺麗に!

手動式 高圧部品洗浄機 グローブジェット

QRコードより
実際の洗浄動画が
視聴できます。

頑固な汚れの除去をサポート! 「高圧」「温水洗浄液」で部品の汚れを落とします。

使い分けが可能な3タイプのノズル

固定式高圧ノズル　手動式高圧ノズル　放射ノズル

- 細かい部分も洗浄可能!
- 密閉式機構
- 循環式タンク（加温したタンク内で部品のつけ置きも可能）

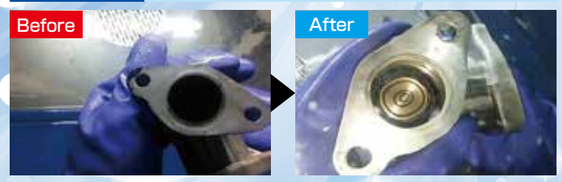
放射ノズル使用例



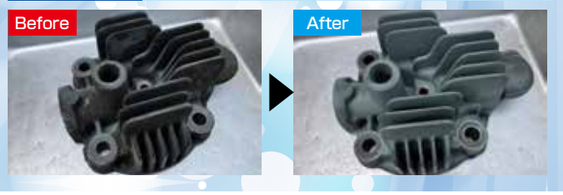
洗浄物に合わせて
吐出圧の調整が可能!



洗浄例① 筒状内部洗浄対応!



洗浄例② 凹凸のある部品も隅々までキレイ!



BANZAI 株式会社 バンザイ　https://www.banzai.co.jp

本　社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail:eigyo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
東大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

ホームページ はこちら　YouTube はこちら　Amazon はこちら

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

ISO9001認証取得
ISO14001認証取得

バンザイは SDGs を推進する日本ユネスコ協会連盟の維持会員として支援しています。

BANZAI NEWS

2026 Autumn 340



特集 BANZAI NEWS

それでも止まらない「電動化」を好機にできるサービスショップへ

BANZAI NEWS
2026 Autumn 340



庄川峡　紅葉　観光船 ―― 富山県

富山県を流れる庄川の渓谷美を堪能できる庄川峡。深い渓谷を彩る紅葉の中、観光船がゆったりと進む秋の名景。赤や黄金色の木々が水面に映え、静かな峡谷と鮮やかな橋が織り成す風情が旅人を魅了する

★歳時記

10月	12日	スポーツの日
11月	3日	文化の日
	7日	立冬
	15日	七五三
	23日	勤労感謝の日
12月	22日	冬至
	25日	クリスマス



●目次

★特集
あらゆる「変化」をチャンスにつなげられる
持続可能なサービスショップとなるには?…… ①
【第3回】それでも止まらない「電動化」を
好機にできるサービスショップへ
★モデルショップ訪問
【新潟いすゞ自動車株式会社　上越支店】…… ⑥
事業環境の変化に対応しながら作業
効率や安全性、快適性を最大限追求
【神戸トヨペット株式会社　姫路テクノセンター】…… ⑩
生産効率と働き方改革、そしてコンプライアンスの
課題を解決する新時代のサステナブルBP工場を新設
★TOPICS＜学生フォーミュラー日本大会2026＞…… ⑭
★ショールーム…… ⑯
★BANZAIガイド…… ⑳

特集
BANZAI NEWS

あらゆる「変化」をチャンスにつなげられる
持続可能なサービスショップとなるには？

第3回 それでも止まらない「電動化」を
好機にできるサービスショップへ



日本発と言っても過言ではない「電動化」、中でも地球温暖化を筆頭とした環境問題解決の決定打とされるZEV（走行時ゼロエミッション車）の進化・普及は、昨今やや停滞基調にあるものの、長期的には確実に進むと考えられます。

2026年度連載「あらゆる『変化』をチャンスにつなげられる持続可能なサービスショップとなるには？」、3回目の今回は、世界情勢の相次ぐ激変に翻弄されながらも依然進行している「電動化」を、いかに柔軟に受け入れ好機とするかを考えたいと思います。

補助金終了やエネルギー供給不安が相次いでも電動車の普及は止まらない

今や自動車業界の枠に留まらず、より広い政治・経済・環境・技術・文化の観点から昨今の情勢を見るうえでも、最早外せなくなったのが、自動車の「電動化」です。その口火を切ったのが日本であることは、疑いの余地もないでしょう。

大気汚染や石油資源の枯渇、地球温暖化といった世界規模の課題に対する解決策の一つとして、1997年に世界初の量産HEV（ハイブリッド車）として初代トヨタ・プリウスが発売されると、2009年には世界初の量産BEV（バッテリー式電気自動車）として三菱i-MiEVが、次いで2010年に初代日産リーフが市販化。2014年には世界初の量産FCV（燃料電池車）として初代トヨタ・ミライが発売されるなど、日本の自動車メーカーによって「電動化」の道が切り拓かれていきました。

翌2015年、フォルクスワーゲングループによるディーゼルエンジン排ガス規制不正問題、通称「ディーゼルゲート」が発覚すると、それまで直噴ディーゼルターボエンジンや、ガソリンエンジンのダウンサイジング＋直噴＋過給による燃費低減とCO_2排出量削減を主張していたEUと欧州各国、その自動車メーカーは急速に、PHEV（プラグインハイブリッド車）をつなぎ、BEVを本命とした電動化へと舵を切ります。


世界初の量産HEVとして電動車普及の口火を切った初代トヨタ・プリウス


世界初の量産BEV・三菱i-MiEVの急速充電イメージ


世界初の量産FCV・初代トヨタ・ミライのメカニズム透視図

こうした流れを受けて、アメリカのテスラ、次いで大都市部での大気汚染深刻化と政治・経済的思惑がリンクする形で中国のBYD Autoや数多の新興BEVメーカー、また欧州自動車メーカーのBEVも、各国政府の強力な支援を受け、世界各国で躍進。その結果、市場規模は成長期に入りつつも、技術的にはまだまだ未成熟なまま、競争が急速に激化し、市場はレッドオーシャン化します。

そして、ドイツが2023年末にBEVへの補助金を打ち切ると翌2024年より各国が追随し、それを契機として、BEVに注力してきた自動車メーカー各社で、BEVの販売不振とそれに端を発する業績低迷、現行モデル販売終了や新規モデル開発・発売中止といった、BEVシフトの計画を修正する動きが加速。

これに追い討ちをかける形で、アメリカ合衆国では2025年1月の第2次ドナルド・トランプ政権発足後、世界各国への関税強化やBEV補助金終了、カリフォルニア州でのZEV規制無効化、温室効果ガスの危険性認定撤回を相次いで強行。中国では2025年末にNEV（新エネルギー車。PHEV、BEV、FCVの総称）免税が終了し以後段階的に縮小、日本でも2028年5月よりBEVとPHEVへの自動車重量税を加算する方針を2025年12月に閣議決定するなど、BEVへの逆風が世界各国で相次ぎました。

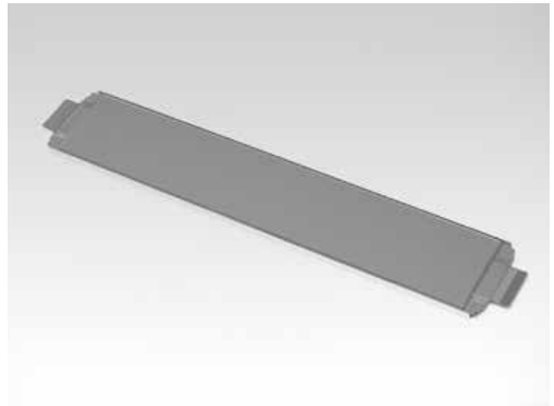
そんな折、2026年2月に始まり、9月時点で今なお続いているイラン戦争は、中東諸国から他地域への石油供給を不安定にさせたため、欧州を中心にBEVの新車販売が回復する傾向が見られます。しかし夏に入ると、記録的な熱波と小雨による水不足と干ばつが深刻化。これが直接の影響を受ける水力発電のみならず、河川の水による冷却が必要な原子力発電所や火力発電所に対しても稼働縮小を余儀なくさせており、走行時に必要なエネルギー源を電気にのみ依存するBEVへの不安を煽る格好となっています。

では、この状況が続けば、自動車の「電動化」が停滞し、やがてICV（純内燃機関車）へと回帰していくのでしょうか？　その可能性はむしろ低いと考えるべきでしょう。前述の熱波や山火事、氷河の崩落、長期間続くかごく短時間に集中する極端な豪雨がもたらす洪水など、異常気象と自然災害が世界各地で発生し、地球温暖化の影響が目に見える形ですでに顕在化しているからです。

日本国内の登録乗用車新車販売のみを見ても、2022年以降はICVの販売台数を電動車が上回るようになり、直近の2025年には電動車の販売台数がICVの2倍弱に達しています（日本自動車販売協会連合会調べ）。こうした動きやCAFE（企業別平均燃費）規制の強化を受けて、国産乗用車メーカー各社が、取り扱い車種のモデルチェンジや一部改良を機にICVの設定を廃止することも、今や珍しくなくなっています。

そして、電動化技術の革新は、今なお続いています。急速充電器の最大出力と、BEVに搭載される駆動用バッテリーの最大受入能力は、ともに上昇傾向にあります。

また、全固体電池の開発も、トヨタ、ホンダ、日産


ホンダが栃木県さくら市にある全固体電池パイロットラインで試作した全固体電池セルのサンプル

乗用車燃料別登録台数の推移

※:単位は台。軽自動車は含まず。

	ガソリン車	ディーゼル車	LPG 車など	ICV 計	HEV	PHEV	HEV/PHEV 計	BEV	FCV	ZEV 計	電動車計
2020 年	1,380,762	147,503	186	1,528,451	920,275	14,741	935,016	14,604	761	15,365	950,381
2021 年	1,183,129	143,088	161	1,326,378	1,027,104	22,777	1,049,881	21,139	2,464	23,603	1,073,484
2022 年	938,750	125,200	64	1,064,014	1,089,077	37,772	1,126,849	31,592	848	32,440	1,159,289
2023 年	948,455	146,164	99	1,094,718	1,460,133	52,143	1,512,276	43,991	422	44,413	1,556,689
2024 年	791,128	111,226	81	902,435	1,542,784	43,132	1,585,916	34,057	697	34,754	1,620,670
2025 年	807,856	114,099	47	922,002	1,530,019	41,186	1,571,205	39,885	431	40,316	1,611,521

（出典:日本自動車販売協会連合会）

などが2027年以降の量産開始を目標に進めています。全固体電池は、電解質に現在一般的な液体ではなく固体を用いるため、電解質漏洩による発火・爆発のリスクがなく安全性が高い、バッテリーとケース双方の形状・搭載自由度が高い、正極・負極活物質の選択自由度が高い、温度変化に強い、急速充電に強い、劣化しにくいなど、数多くのメリットを備えています。

FCVについても、気体ではなくよりエネルギー密度が高い液体の水素を車載する技術が市販車にも搭載可能になれば、それがゲームチェンジャーとなる可能性を秘めています。

こうした技術革新が進めば、現在は車両価格や重量、室内空間効率、充電の所要時間、リセールバリューなどの面で不利なBEVやFCV＝ZEVも、やがてあらゆる性能面でICVを凌駕。行政による規制や補助金がなくとも、一気に普及が進む可能性さえあるでしょう。

既存技術を用いたZEVの普及は当面続く。そのために必要な備えは…？

しかし日本ではそれまでの間、BEV では既存の液体電解質を用いたバッテリーを搭載する比較的安価で短距離走行に適した軽自動車・小型車あるいは対照的に長距離走行を可能にした中～大型 SUV、FCV では気体水素用の高圧タンクを採用する高級乗用車や大型トラック・バスなどを中心として、着実に増えていきます。

全固体電池や液体水素タンクが普及期に入るのは早くとも 2035 年。また 2025 年 3 月末時点の自動車平均使用年数（自動車検査登録情報協会調べ）は乗用車で 13.35 年、貨物車で 16.29 年となっていますが、これらが今後さらに長期化すると仮定した場合、サービスショップの皆さんは、今後 25 年間前後は既存技術を採用した ZEV の入庫に備える必要があると考えられます。

ここで特に注意しなければならないのは、車体修理を営んでいるサービスショップの皆さんは、今日発売されたばかりの新型車が今日いきなり事故を起こして入庫し、駆動用バッテリーや高圧水素タンクの点検・脱着・交換をしなければならなくなる可能性がある、ということです。

とりわけ、新車販売も営んでおり、取り扱い車種の中にこうした ZEV が含まれる場合は、今日にでも入庫する可能性が飛躍的に高まります。ZEV の新車販売を始める際、取り扱いの要件に指定された整備・修理機器の導入が含まれていることも多いでしょうが、そうでない場合は取り扱い車種に適した機器を、早急に選定し導入しなければなりません。

具体的には、重いだけではなくサイズも大きい駆動用バッテリーや高圧水素タンクの着脱・運搬と、それらを搭載する車両のリフトアップに適した、リフトアップ後の作業空間が広く 4t クラスの昇降能力を持つリフトや、様々なパワートレイン関連部品の運搬に対応するマルチリフターが必要になります。

また、中～大型の全電動 SUV や高級 FCV の入庫が多ければ、大径低偏平タイヤに対応するレバーレスタイヤチェンジャーや高機能ホイールバランサー、ホイールドーリーなども、作業効率向上のみならず、入庫車両の損傷やメカニックの怪我を防ぐ観点からも、不可欠といえます。

さらにいえば、入庫した BEV の充電に必要な急速充電器や、お客様の車両が電欠した場合に救援するための可搬型 BEV 充放電器も、備える必要があるでしょう。

そして「電動化」が進んでいるのは、自動車だけではありません。その自動車を整備・修理するための機器類でも「電動化」技術の進化・普及は同様です。

中でも、電動のインパクトレンチやガレージジャッキ、サンダーやポリッシャー、掃除機・洗浄機は、ホース・コード類が不要となるため、やはり車両の損傷やメカニックの怪我を防ぐうえでも重要です。しかも、バッテリー技術の進化・普及とともに軽量化や低価格化が進んでいるため、以前よりも扱いやすく、かつ手に届きやすくなっています。



能力4tかつ3段アームを備えることでBEVを含む軽自動車から小型トラックまで幅広く対応する埋設フラットアーム式リフト「クリオスネオリフト」



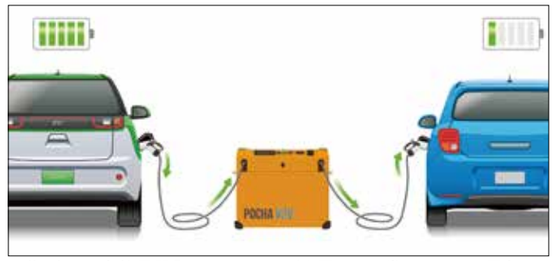
駆動用バッテリーからエンジン・トランスミッションまで幅広く脱着・移動できる能力1.5tの電動式リフター「ユニバーサルマルチリフター」

これら ZEV の整備・修理に適した機器類や、電動工具の導入については、バンザイ営業スタッフまでお気軽にご相談下さい。

次回は、こうした「電動化」や、前回ご紹介しました「自動化」を背景に、著しく進んでいる整備・修理技術の「高度化」へ、いかに的確に備えるかを考えたいと思います。



定格出力15kWの薄型壁掛けタイプ中容量BEV用急速充電器「HFR1-15B11」



可搬型BEV充放電器「POCHA V2V」を用いた通常のBEVから電欠したBEVへの電力供給イメージ図



車両が動かなくなった際の移動はもちろん屋内でのエンジンを始動しない短距離移動にも便利なバッテリー駆動式ロールプッシャー「モビトラック」

事業環境の変化に対応しながら作業効率や安全性、快適性を最大限追求

佐渡島を含む新潟県内全域を商圏とする新潟いすゞ自動車株式会社が 2026 年 5 月 7 日、上越支店を移転リニューアル。敷地・工場面積とも大幅に拡大しつつ、メカニックの作業効率や安全性、快適性を最大限追求した、大規模かつ最新鋭の新工場の稼働を開始しました。



支店長
林 武史 氏



工場長
杉原 孝志 氏



見る角度によって変化する形で高田城址公園の桜が描かれた、新潟いすゞ自動車株式会社 上越支店の外観。敷地北側の防風壁は日本海からの強い海風を和らげる役割を担う。



モダンで落ち着いた仕立てのオフィス・受付。

ユーザー数と車両の拡大に合わせ大規模な工場へ一新

新潟いすゞ自動車株式会社（以下、新潟いすゞ）が設立されたのは、戦後復興が始まったばかりの 1946 年。やがて 2000 年代に入ると、新潟県内のいすゞディーラーを統合し、経営規模を拡大し続けています。

そうした中でも上越支店は歴史の長い拠点ですが、ユーザーが増え続けるにつれて「敷地が手狭になり、入庫車両が敷地内に入れず道路でお待ちいただくこともありました」（杉原工場長）。また「現在はトラックも大きくなり、当時の車両に合わせて作られた工場も新しい車両のサイズに合わなくなっていった」（林支店長）ことも、今回の移転リニューアルを行う大きな決め手になったようです。

こうして 2026 年 5 月にオープンした新たな上越支店は、敷地面積が従来の約 3.8 倍、工場面積約 1.9 倍に。充分以上に広大な車両置き場のみならず、サービス工場も計 12 ストールを擁する、大規模かつ最新鋭の拠点となりました。



お客様用待合室。
パーティションも設けてプライバシーに配慮しつつ、リラックスできるオットマン付きチェアを完備。







事務所２階には広々とした休憩室（左）や、背もたれを倒せばベッドとしても使える椅子を備えた救護室（右上）に加え、風呂付きの更衣室も完備!（右）

4柱式リフトを6基導入し受入可能台数を最大化



事務所・サービス工場間は部品庫として様々な整備に対応できる体制を構築。





天井クレーンは１～９番ストールを可動域として重整備に活用。二手に分かれた工場内中二階はタイヤ置き場やコンプレッサー等機器類兼共有工具の置き場（右）とした。

新サービス工場は計５ヵ所に及ぶ「大型整備」ストールのほか、「乗用車・他」「フロアー」「小型・中型整備」「BRT・25m 車」「完成検査場」「受入検査場」「洗車場」各１ストールで構成。そのいずれにもシャッターとエアコンを完備し、冬場の豪雪はもちろん真夏の酷暑でも快適に作業できる環境を構築しました。

このうち５ヵ所の「大型整備」ストールには全て、能力各 16t の「4 柱式キャタピラツインⅢ」を導入。作業効率および受入台数の向上に大きく寄与しています。なお、中央の７番ストールは、融雪剤対策に欠かせない下回り防錆塗装作業用のスペースとして、地下集塵ピットや電動巻き上げカーテンも設けられています。

「BRT・25m 車」ストールにも「4 柱式キャタピラツインⅢ」が導入されていますが、こちらは連節バスや 25m フルトレーラーへの対応も想定したロング仕様とされています。また、「4 柱式キャタピラツインⅢ」のいずれも、前側と後ろ側との境目も含めて段差のないフルフラット仕様として、転倒事故防止に最大限配慮しました。

「フロアー」ストールには揚程 1.8m、「完成車検場」と「受入車検場」には同 2.2m の「フロアーリフト」を採用。滑り止め塗装が施されており、かつ立ったまま好みの高さで作業できるため、点検やクイック整備に加え「クラッチ交換などの重整備にも便利」（杉原工場長）といいます。

なお、いずれのリフトも、防錆塗装が施された特注仕様とし、定期点検も実施。豪雪地帯特有の融雪剤を含んだ雪による錆を抑え、耐用年数向上を図っています。





裏側から見たサービス工場外観。多くのレーンをドライブスルー可能としている（上）。旧工場の大きな課題だった車両置き場は広く取られ、入庫台数の拡大が可能に（下）。



計５ヵ所に及ぶ「大型整備」ストールには全て「4 柱式キャタピラツインⅢ」を導入。構造上段差ができる箇所にはフラップを設けて転倒事故を未然に防いでいる。

完成検査場や洗車場も作業効率と安全性を追求

そして、年間約 1500 台もの車検を担う「完成検査場」と「受入検査場」には、検査業務効率化システム「ネットワーク」シリーズの中でも記録簿への点検箇所印字機能や写真画像データ管理機能を標準実装する最上級モデル「ネットワークプロ」や、全自動画像処理式ヘッドライトテスター「HT-538」をはじめとして、全自動の「車高測定器」、さらには埋設式の「軸重計」やダンプトラック自重計検査用の「荷重試験装置」も導入。「小型トラックの『エルフ』は個人ユーザーを中心に 4WD 車の販売が圧倒的に多い」（林支店長）ことから、設置型の「フラットフリーローラー」も採用して、自動化による作業効率向上とコンプライアンス対応を最大限追求しました。

「洗車場」にも、豪雪地帯ならではの工夫が数多く盛り込まれています。入庫車両を屋内へ入れる前に車両上部の積雪や、融雪剤を含んだ雪を落とせるよう屋外にも洗車場を設け、屋内と屋外双方の洗車場に、高所作業用のキャットウォークや、転落防止の安全帯を装着できる「エスコートレール」、「天井走行式温水ホース」も完備。メカニックと車両双方の事故を未然に防いでいます。

そして事務所には、脚を伸ばしてくつろげる男女別のお客様用待合室のほか、広々とした従業員向け休憩室や救護室、さらには風呂付きの更衣室も設置。「綺麗な状態で自宅に帰れるようメカニックが頻繁に使っている」（杉原工場長）と好評です。そのほかにも、部品洗浄機「ランドリー」やシンクをストール間の計３ヵ所に設けるなど、作業動線を徹底的に短縮。「メカニックの疲労が劇的に軽減された」（林支店長）といいます。

サービス工場の北側には防風壁も設けるなど、細部に至るまでメカニックの安全性・快適性向上が図られた新潟いすゞ上越支店が、これからの同社を担う未来のメカニックからも注目を集めるのは間違いありません。



中央にある７番の「大型整備」ストールには地下集塵ピットや電動巻き上げカーテンを設置し下回り防錆塗装に対応。



「BRT･25m 車」ストールの「4 柱式キャタピラツインⅢ」は連節バスや 25m フルトレーラーへの対応も想定したもの。



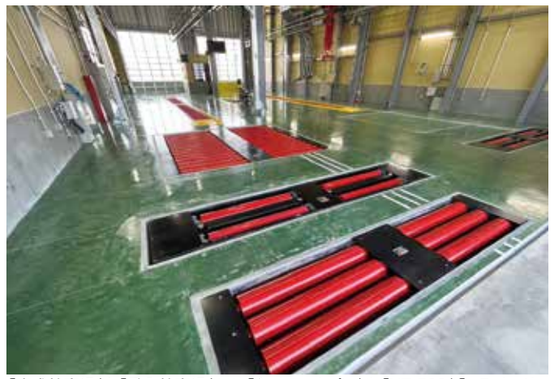
「小型・中型整備」には「2 柱式キャタピラツインⅡ・ミニ」を２基設置し中型以下のトラック２台同時整備に対応。



車両をリフトアップせずに好みの立ち姿勢で点検整備できる「フロアーリフト」。滑り止め塗装で転倒も未然防止。



最も出入口に近い１番の「乗用車・他」ストールには下限時に床面がフラットな「イーグル NX リフト」を１基導入。



「完成検査場」と「受入検査場」には「ネットワークプロ」や「HT-538」「フラットフリーローラー」「車高測定器」「軸重計」「荷重試験装置」を完備しあらゆる車検業務を最大限効率アップ。





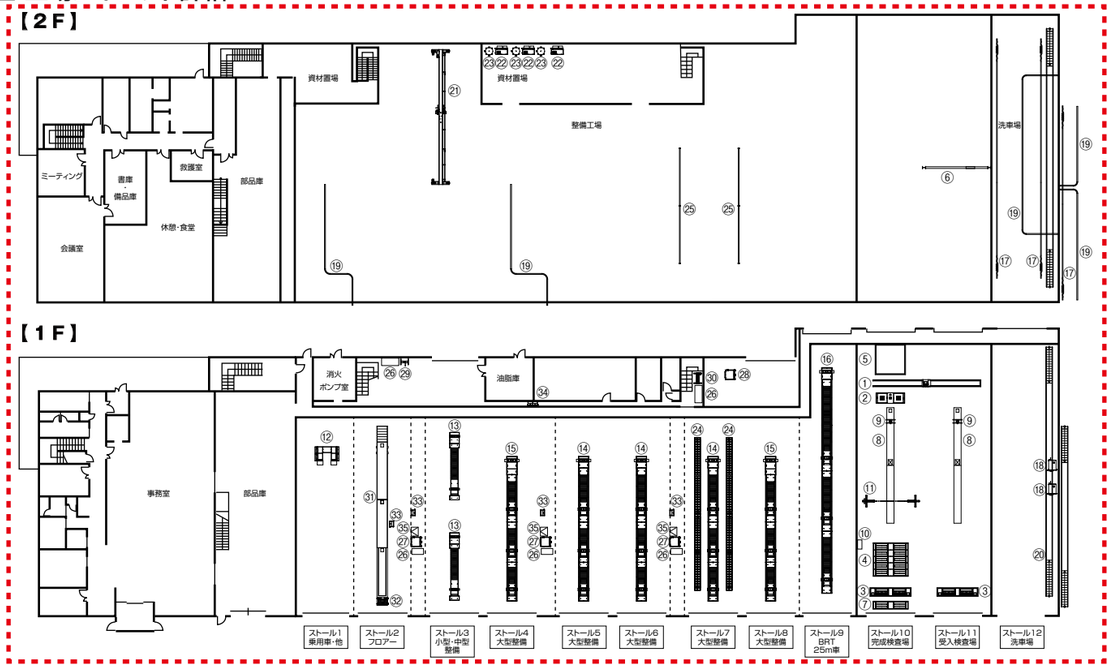
屋内と屋外双方に設けられた「洗車場」のいずれにもキャットウォークと「エスコートレール」、「天井走行式温水ホース」を完備。

店舗概要

あらゆる重整備車両の受入体制を拡大しつつ作業効率や安全性も大幅アップ

- 所在地：新潟県上越市大字上島443-2
- 電話番号：025-543-3737
- 店舗設立：2026年5月7日（現所在地）
- スタッフ数:24名（うちメカニック15名）
- 敷地面積：6485.8坪（21,440.93㎡）
- 工場面積：675坪（2,227.5㎡）

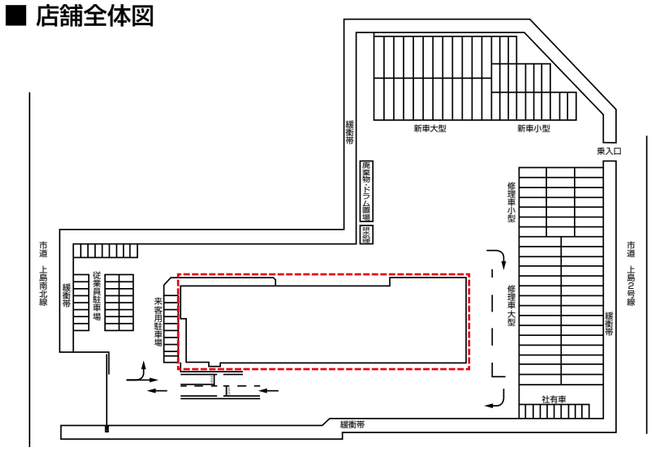
■ 工場レイアウト詳細



■ 設備一覧

①全自動画像処理式ヘッドライトテスター
②サイドスリップテスター
③コンビネーションテスター
④ 10ton フラットフリーローラー
⑤軸重計
⑥荷重試験装置
⑦フラットフリーローラー
⑧フロアーリフト
⑨ピットリフト
⑩ネットワーク 9200Pro
⑪車高測定器
⑫イーグル NX リフト 3.2t
⑬２柱式キャタピラツインⅡ・ミニ　5.5t+5.5t
⑭４柱式キャタピラツインⅢ 16t+16t+16t+16t
AB 間 2,400mm 仕様
⑮４柱式キャタピラツインⅢ 16t+16t+16t+16t
AB 間 3,100mm 仕様
⑯４柱式キャタピラツインⅢ 16t+16t+16t+16t
BRT. 25m トレーラー対応
⑰天井走行式温水ホース
⑱温水洗車機
⑲落下防止用　天井吊り下げエスコートレール
⑳キャットウォーク
㉑ホイスト式　天井クレーン　2.8t
㉒パッケージコンプレッサー　70L
㉓補助タンク　500L
㉔地下集塵ピット
㉕電動巻上げカーテン（2 分割）
㉖作業台
㉗ランドリー　800
㉘ランドリー　600
㉙油圧プレス
㉚油圧プレス　60t
㉛フロアリフト　2.0t
㉜大型車用ピットジャッキ　12t
㉝ドレンボックス DP 付
㉞ダブルシンクタイプ　ドレンボックス DP 付
㉟トレント（水溶性パーツ洗浄）

■ 店舗全体図



（この記事に関するお問い合わせは最寄りのバンザイ支店または事業所までご連絡ください。）

生産効率と働き方改革、そしてコンプライアンスの課題を解決する新時代のサステナブルBP工場を新設



既存店である姫路店の広大な敷地に新設した姫路テクノセンター外観。



取締役本部長
森脇 孝 氏



サービス統括室 技術グループ
グループリーダー / 次長
江原 克博 氏



BP 事業室
BP ユニット長
黒田 和宏 氏



姫路テクノセンター
サービスマネージャー
若松 明 氏

自動車性能の急速な高度化、様々な法令に対するコンプライアンス対応、そして人材不足とエンジニアの働き方改革、車体整備業は今、様々な課題に直面しています。こうした課題に対し、ひとつひとつを真摯に課題解決に取り組み、車体整備工場を新設・具現化したのが、神戸トヨペットの姫路テクノセンターです。

次世代車体整備の新たな幕開けとなる最新型の車体整備モデルが、この整備工場に凝縮されており、まさに持続可能な車体整備がここにあります。

ひょう害など災害の激甚化など自然災害の脅威をきっかけに

神戸トヨペット株式会社は本年 7 月、姫路テクノセンターを新たに開設しました。既存店である姫路店の広大な敷地を利用し、面積 3,365㎡（延床面積：3,406㎡）というスケールを活かした、最新の環境を整えた車体整備工場です。

現代の車体整備に欠かせない機能性と作業性を備えた設備はもちろんのこと、エンジニアの働きやすい環境を整えるとともに、車体整備を取り巻く様々なコンプライアンスに対応するサステナブルな工場コンセプトが特徴です。工場レイアウトを効果的に行うことで、生産能力を最大化。まさに車体整備における理想の作業場を実現させました。

同社では既に 3 箇所のテクノセンターが稼働し、車体整備の内製化が進められてきました。中でもそのうちの 1 工場はひょう害専門の車体整備工場として稼働してきましたが、2024 年 4 月に姫路エリアを襲った大規模なひょう害により、対応にあたった姫路店では回送などに大きな負荷がかかり、その結果、ひょう害車両整備の長納期化が発生しました。その解決策として、テクノセンターの新設計画が再浮上（2000 年代初期にも計画があったものの一時中断）し、この度の新設となりました。



工場内全景。向かって左側が鈑金ストール、右側が塗装ストール。



活躍する女性のペインター（左）。

森脇孝取締役本部長は「水性塗料の塗装については研修を受けたスタッフが作業に従事し、溶接においても基準を満たした機器と設定で実施しています。整備技術と品質、そしてコンプライアンスを高いレベルで両立する取り組みを進めています」と語ります。

最新のアライメントとアルミ専用ストール2基の塗装ブースと乾燥機を設備

作業場は北側を鈑金ストールに、南側を塗装ストールとし、全 12 のストールを効率的にレイアウトしました。鈑金では 2 ストールをアルミ専用ブースとして設置。TÜV 認証もクリアできる作業場とし、マルチマテリアル化に対応しました。また、完成検査場にはアライメントテスターとアライメント仕様のリフト、ワークステージを効果的に配置しました。3D アライメントテスター「Q.Lign（キューライン）」の使用について、黒田和宏 BP ユニット長は「ターゲットクランプの取り付けが簡単に、そしてスピーディーに実施でき、タブレットでの操作などアライメント診断の効率化を図ることができました」とその効果を語ります。



2 基のプッシュプル型換気塗装ブースと乾燥ブース 1 基を設備。



アルミ素材の鈑金に対応可能な専用ストールを 2 ベイ設置。



乾燥ブース（手前側）。



塗装ブースから乾燥ブースへはレールで移動。



塗装ブースは埋め込み式リフト仕様を設置。ハイエースのワイドルーフの作業も楽々。

一方、塗装ストールでは 2 基の塗装ブースに加え、水性塗料の乾燥ブースを設備しました。

「弊社のテクノセンターでは初の試みとして乾燥室を設けました。取り回しを工夫すれば、塗装ブース3基分の能力が期待でき、生産効率の向上に繋がると考えています」（森脇取締役本部長）。

また、同社では塗料の水性化を進めており、将来的なオール水性化を見据えた工場コンセプトとなっています。なお、姫路テクノセンターには女性のペインターが在籍しており、後進の指導にもあたるなど、性別や年齢に捉われない働きやすい環境を整えています。

「色彩感覚が優れていることから塗装作業を勧めました。法令にのっとった作業プロセスと今回導入した最新の塗装ブースで安全の作業に従事していただいています。女性用の休憩室、ロッカーも備えています」と若松明サービスマネージャー。女性ペインターも「エンジニアに配慮してくれた設備を整えてもらい、安心して業務に向き合っています」と話してくれました。



3D アライメントテスター Q.Lign とワークステージ。



2 基の塗装ブースを挟んで調色室を効果的に配置。





リフトアタッチメントを取り付け（左）て、小型ワイヤレスカメラを設置（右）。





機械室を仕切り壁で隔離し、BP 工場特有の熱と風をコントロール、



アライメントの診断はタブレットで簡単操作。



ヘッドライトテスターを用いて光軸調整。



調色室内観。

場内はもちろん、エアコン完備。安心で快適、そして最新鋭の設備がエンジニアのモチベーションを高めています。

BP工場特有の環境課題を機械室の分離レイアウトでソリューション

こうしたサステナブルなテクノセンターの新設コンセプトを推進するにあたり、当初は空調とロールシャッターの設置は困難ではないかとの懸念がありました。車体整備工場特有の環境として、塗装ブースの吸排気、大型ファンやバーナー、熱交換器、そしてコンプレッサーなどを含めた機械室から生じる風と熱源の課題です。これに対して、バンザイは塗装ブースの排気側を含め、機械室を壁で仕切ることをご提案、空気の流れをコントロールすることで空調とロールシャッターの導入が実現するとともに、空調の効果を最大化。車体整備工場のイメージを覆す、快適性を実現することで、エネルギー効率を高め、真夏の生産性の向上に繋げました。

このような機械室を仕切り壁でレイアウトすることで、デッドスペースの有効活用にも成功。江原克博グループリーダー／次長は「機械室の間に調色室を設けることができました。エンジニアのアクセスも含めて利便性が高いです」と機械室の分離が、合理的な工場レイアウトを生んだ点を挙げています。

こうした新たなテクノセンターの開設により、同社の経営戦略にも変化が生じています。

森脇取締役は「車体整備はまだまだ重要なサービスであることに変わりはないものの、近隣の専業車体整備事業者では廃業を余儀なくされているケースも出ています。車体整備士の確保が難しくなっているのが現実です。今後も協力工場の皆さまと手をとりあうとともに、内製率を高めていき、品質の高い車体整備を構築していきます」と今後の方針を見据えます。

技術力はもちろん、コンプライアンスや働き方改革の両立までを最大化した次世代型サステナブル車体整備工場として、新たな車体整備のロールモデルに相応しい車体整備工場が姫路に誕生しました。

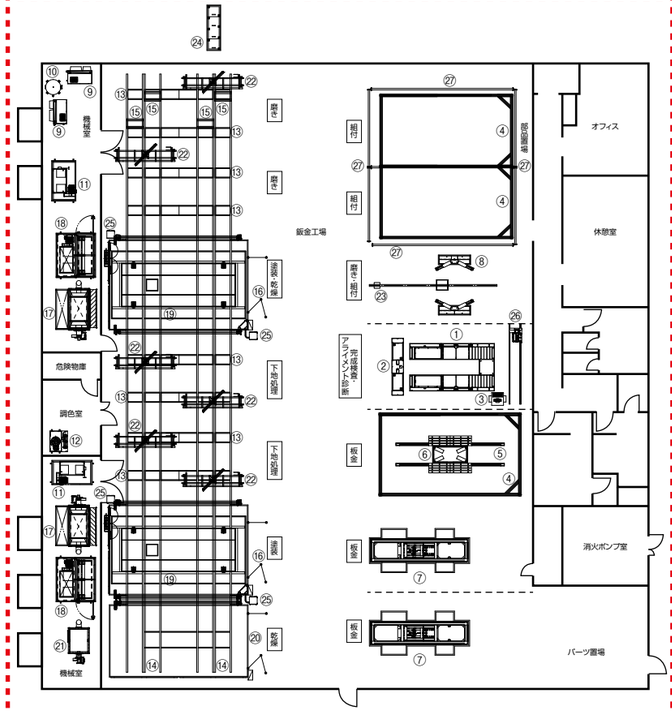
店舗概要

- 所在地：兵庫県姫路市花田町一本松148
- 電話番号：079-280-3308
- 店舗設立：2026年7月

サービス概要

- スタッフ数：14名（うちエンジニア9名）
- 敷地面積：3,365㎡
- 延床面積：3,406㎡

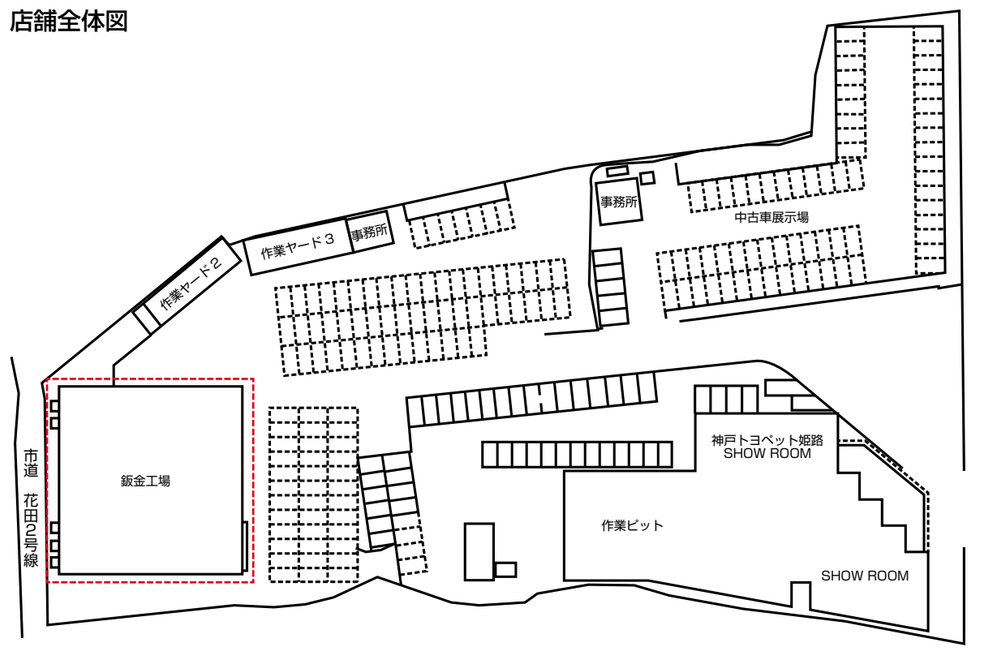
工場レイアウト詳細



設備一覧

①ワークステージ X（アライメント仕様） 3.2t
②サイドスリップテスター
③アライメントテスター
④スーパーフロアーレール
⑤スーパーステージ
⑥板金リフト 3t
⑦ベンチ式フレーム修正機 （カロライナ 4.2t）
⑧タンデムリフト 3t
⑨パッケージコンプレッサー ドライヤ付 75L
⑩補助タンク 500L
⑪排気ユニット
⑫調色ブース 防爆 LED 灯付
⑬サンディングピット
⑭トラバーサーレール 8 本組
⑮トラバーサー台車
⑯塗装ブース 標準 ガス仕様
電動バーチカルドア 2 枚
⑰塗装ブース用 給気装置
⑱塗装ブース用 排気ユニット
⑲テーブルリフター 3t
⑳乾燥室 標準 ガス仕様
電動バーチカルドア 1 枚
㉑乾燥室用 循環ユニット
㉒吊下式近赤ヒーター
㉓チェーンブロック 1t
㉔油水分離槽
㉕温風発生器（マイティージュニア）
㉖画像手動式ヘッドライトテスター
㉗電動カーテン

店舗全体図



（この記事に関するお問い合わせは最寄りのバンザイ支店または事業所までご連絡ください。）

バンザイが「学生フォーミュラ」に 4大会連続で協賛、学生や来場客へPR

第 24 回ものづくり・デザインコンペティション 学生フォーミュラ日本大会 2026

未来の自動車エンジニアを育成すべく、大学・自動車大学校の各チームがフォーミュラカーを自作し、走行性能に加え市販を想定した開発能力も競う「学生フォーミュラ」の第 24 回日本大会が、2026 年 8 月 2 ～ 7 日の 6 日間、Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場。愛知県常滑市）で開催されました（主催：自動車技術会）。

今大会は、第 20 回アジア競技大会（2026 年 9 月 19 日～ 10 月 4 日）および第 5 回アジアパラ競技大会（2026 年 10 月 18 日～ 24 日）の開催に伴い、開催期間を 1 カ月以上前倒しするとともに、会場内の利用可能なスペースや設備に制約がある中での開催となりました。

しかし、規則上の上限にあたる 90 チームを超える参戦申込があったため、ICV（ガソリンエンジン車）64 チーム、EV（電気自動車）26 チームの参戦を決定。本戦には海外勢 16 チームを含む ICV54 チーム、EV23 チームが参戦しました。

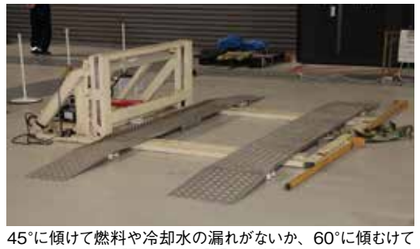
多くのチームにとって最初の難関となる車検では、ICV は騒音試験、EV は電気車検といった独自の項目を含めて安全性が確認されます。

今回は初日に EV クラスで車検中、4 日目に ICV クラスで走行待機中に火災が発生。各クラスとも全車両の再車検を実施し、競技内容も限定して再開催となる波乱がありました。結果、ICV クラスでは同志社大学、EV クラスでは名古屋大学が優勝を果たしています。

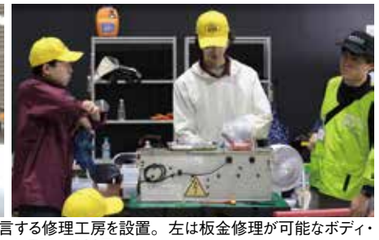


© 2026 自動車技術会


レインテストでは 2 分間車体上部から水をかけ続け、止めてから 2 分間監視し漏電がないかを確認する。


45°に傾けて燃料や冷却水の漏れがないか、60°に傾むけて横転しないかを確認するチルト試験の機器。




車検未通過のチームへカーメーカー技術者が修理・助言する修理工房を設置。左は板金修理が可能なボディ・シャシーの工房。右は EV の電気修理工房でバッテリーを確認する様子。


ICV クラスで総合優勝した同志社大学。


EV クラスで総合優勝した名古屋大学。

スポンサーPRブースで BAN君とともにバンザイをアピール!



特設パネルに描かれた BANZAI ロゴ。
スポンサーはさらに増え、247 社・団体に達した。



今回のバンザイブースではデジタルルーレットを展開。ルーレットを回すと「バンザイ山椒」あるいは BAN 君をデザインしたポーチやボールペンをプレゼント!




ブース面積の縮小に伴い展示製品を厳選。実際のハンドツールセットのほか、主力製品の車検機器やリフト、門型洗車機などを模型で展示、紹介した。




車検機器を取り扱う数少ない 1 社であることなどバンザイの強みを説明するスタッフへ、熱心に耳を傾ける学生たち（左）。学校が夏休み中の開催となった今回は、一般の親子連れも多く訪れて注目を集めた（右）。

今大会には 247 社・団体が支援する中、バンザイも 4 大会連続で協賛。PR コーナーにブースを設け、スタッフが学生や一般来場客を歓迎しました。

今回は前述したアジア（パラ）競技大会の影響で、スポンサー PR コーナーの面積が前回の半分となったため、全社の出展ブースサイズが一律 3.6 × 2m に制限されました。また、前回は 4 日目の閉場後に設けられた、参戦チームとスポンサーとの交流会が実施されませんでした。

そうした環境の変化を受け、今回のバンザイブースでは、展示内容を厳選。実際の製品の展示は、参戦チームにとって馴染みの深いハンドツールのセットに留め、主力製品である車検機器やリフト、門型洗車機、タイヤチェンジャー、ホイールバランサーなどの整備機器はポスター類や、サービス工場をイメージした模型の中で紹介しました。

また、ブースを訪れた方にまずは楽しんでいただけるよう、デジタルルーレットを展開。ルーレットを回して表示された抽選結果に応じて、岩塚製菓のあられ「バンザイ山椒」や、バンザイのマスコットキャラクター・BAN 君をデザインしたポーチやボールペンを説明資料とともにプレゼントし、バンザイをアピールしました。

そして、今後卒業する学生への採用活動を展開。車検機器を取り扱う国内 4 社のうち 1 社であり、自動車機械工具業界でのシェアと知名度はトップクラスであること、また安定した需要があり、技術力の高さがあることなどを訴求しました。

バンザイは今後もこれらの取り組みを強化し、自動車整備・修理業界で活躍する人財の拡大・育成・定着を図って参ります。ぜひご期待下さい。

【リフト】クリオスネオリフト　DPL-400AMWF

能力 4トン

安定の能力4トン!
広い作業スペースとメカニカルロック式安全装置で
ゆとりのある環境と安全性の向上を実現!

作業スペースが広く足元もフラット!
安全で快適な整備環境



●全面フラット設計
リフト収納時及び上昇時共に床面がフラットになるため、作業エリアの段差を解消。

●メカニカルロック式安全装置
確実な車両保持で、より安心の作業環境を実現。

●広い作業スペース
リフト周辺に広い作業スペースを確保することで、足回り整備や下回り作業もスムーズに行うことができます。

3段式アーム

本体寸法をコンパクトに抑えながら、幅広い車種に対応する 3段式スライドアームを搭載。
リフトポイントへのセット時は、旋回ロック解除操作を行うことなく簡単にセットできます。リフト上昇時には自動でアームをロックすることで、作業効率と安全性を両立した整備環境を実現します。



アタッチメント収納ボックス

収納蓋は、ダンパーを標準装備。
蓋を閉じる際の衝撃や音を緩和させます。



タッチパネル付き制御盤

制御盤にタッチパネルを標準搭載。
リフトの異常表示や定期点検案内表示をして、設備管理にも貢献します。有線・無線リモコンが壊れてしまった場合でもタッチパネルの緊急用リモコン機能により、リフトの昇降操作が可能です。



仕　様

型　式	DPL-400AMWF
対象車両	軽～普通乗用車 軽～小型トラック（除ロング） ワンボックス車、RV
能力（kg）	4,000
揚程（㎜）	1,800
ラム中心間距離（㎜）	2,400
ラム径（㎜）	120
駆動方式	電動油圧
電源（V、kW）	AC200　三相、2.2
エアー圧（MPa）	0.6 ～ 0.7
油圧作動油（L）	約 20
安全装置	メカニカルロック、ヒューズ弁、過負荷防止装置
本体重量（kg）	約 2,500
標準付属品	低床クイック受金（FQL101）

※一部車両によってはリフトアップできないことがあります。
※洗車不可

【電動油圧式テストリフト】スーパープラトンビッグ　TL-PS151

安心のメカニカルロック内蔵
能力15tonで大型車もラクラク!

●標準仕様
安心のメカニカルロック内蔵。
能力15tonで大型車もラクラク!
安心のテストリフト

●フローティングスライダー仕様
受台幅寸法が標準仕様と比較して広く各種アタッチメントが使用できる為、より多くの車両がリフトアップ可能です。

●FK仕様
リフト上昇時に床面がフラットに。
床面開口部がない為、作業性・安全性に優れています。



標準仕様（TL-PS151（FK））



フローティングスライダー仕様（TL-PS151-C）



FK 仕様（TL-PS151FK-C）

仕　様

型　式	TL-PS151（FK）	TL-PS151-（FK）-C
対象車両	大、中、小型トラック 及び バス	
能力（kg）	15,000	
揚程（㎜）	1,000	
受台幅寸法（㎜）	1,000	1,020 ～ 1,500
電源（V、kW）	AC200　三相、2.2	
操作方式	リモコン	
上昇時間（50/60Hz）（秒）	約 95/76	
使用油量（L）	約 37（タンク 26+ シリンダー 11）	
使用オイル	油圧作動油（ISO VG46 相当）	
機械総重量（kg）	約 500	
標準付属品	フロントアタッチメント　2 個	フロントアクスル受板　2 個

共通オプション

■ 無線リモコン（WLA-L-4BOXS）

便利な無線リモコン
リフトの操作や受金のセッティング時の作業動線を短縮できます。

受信機内のスイッチを操作することで、有線操作と無線操作を切り替えることができます。有線リモコンは受信機内に格納できます。

※有線・無線の切り替えは、リフト下限で行ってください。



送信機　受信機　無線・有線切り替えスイッチ

【電動リフター】ユニバーサルマルチリフター　UML-1500ER

リフター本体を共通化することでワークに応じた専用リフターは不要に!
2種類の上部OP「アームアタッチメント」と「テーブルアタッチメント」を付け換えることで、様々なワークに対応。

●作業者の労力負担軽減と安全性の両立

●幅狭設計で作業スペース確保
EV・PHVのバッテリー脱着作業等の車体下部の作業スペースを確保。
ステップを設けることで高所まで手が届きやすくなります。







※「テーブルアタッチメント」装着例　※「アームアタッチメント」装着例

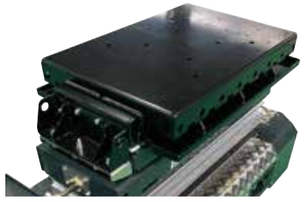
●作業効率を高める便利機能
ドレンコック、高輝度調光式LED、最大荷重時でも非常に軽い操作力で前後左右に位置調整が行えるテーブル機構、ロングケーブルリモコンSWなど便利な機能で作業効率が向上。

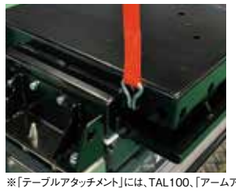
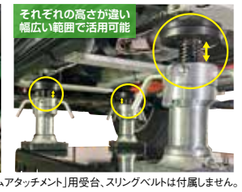

※ドレンコックも標準



多用途テーブルアタッチメント（オプション）

テーブル上部はM10×100㎜ピッチの治具穴を設置。
プレートリフト用OPのTAL100とアームアタッチメント用受台と組み合わせてもご使用いただけます。



自在に高さ調整できるアタッチメント



※「テーブルアタッチメント」には、TAL100、「アームアタッチメント」用受台、スリングベルトは付属しません。

仕　様

型　　式	UML-1500ER-T01	UML-1500-A01
能　　力（kg）	1,500	
下限／上限高さ（㎜）	901/1,901	1,131/2,131
駆 動 方 式	電動式（走行、昇降、操舵）	
充 電 器（V/A）	AV100/5（充電器内蔵）	
テーブル可動範囲（㎜）	前後／左右　±50/40	
安 全 装 置	降下止め装置、安全弁、ヒューズ弁、走行用安全レバー、リフター挟まれ防止カバー、足先挟まれ防止車輪カバー	
照　　明	高輝度調光式 LED ライト	
本 体 寸 法（㎜）	W752×L2,700×H990	
重　　量（kg）	約 830	約 900
オ プ シ ョ ン	アームアタッチメント、テーブルアタッチメント	

【大型洗車機】カミオングレイト　CMCN8200

プラットフォームを一新! 洗浄力や特殊車両への対応など、さまざまな面で機能が進化しました!

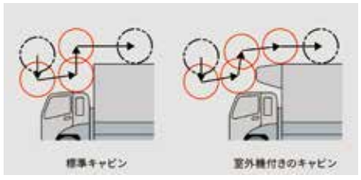
●多彩な形状に対応
天井部の複雑な形状に対応するとともに、ワンボックス商用車や普通商用車の洗車も可能

●特装車の洗浄も可能
高圧洗浄機能を搭載することで、ダンプカーやミキサー車などの特殊車両にも対応

●スマート運用を実現
新タッチパネル、1Way運用、純水生成装置、スポンジブラシ、洗車機スマートサポートなどを用意




●大型洗車機では初めて「ワイドセンサー」を搭載
22対のワイドセンサーを新たに搭載。車形の検出能力が向上したことで、これまで洗えなかった標準キャビンやルーフタイプの室外機（※1）を搭載しているキャビンでもブラッシングできるようになりました。



※1 室外機の形状によってはブラッシングしない場合もあります。



●操作パネルにカラータッチパネルを採用
乗用車向けの洗車機で実績のある液晶カラータッチパネルを採用。視認性を高めるとともに、感覚的に分かりやすく、操作性が大幅に向上しました。



仕　様

型　　式	CMCN8200
洗車可能車種	標準：トラック、セミトレーラー、ワンボックス商用車 OP：バス、特装車、普通商用車、フルトレーラー
洗車可能寸法（㎜）	標準：幅 2,500×高さ 4,100×長さ 12,000（OP：長さ 19,000）
洗車機本体寸法（㎜）	幅 5,000（MAX+250）×高さ 5,230×奥行き 2,700
レール寸法（㎜）	標準レール幅：4,000（OP：3,640/4,200） 標準レール長：18,000（OP：22,000/23,500/25,000）
洗 車 コ ー ス	標準：水洗い、シャンプー　OP：撥水コート
本体安全装置	緊急停止装置（外側前後：車幅検知センサー）、車両停止位置案内装置 緊急停止ボタン（前方・左右：計 2 カ所）、本体転倒防止装置、強風移動防止装置
洗 車 時 間	最速：3 分 52 秒（10 トン車、12m ボディ、1 往復水洗いコース時）
電 気 容 量（kW）	標準：5.7（客先ブレーカー容量 75A）

BANZAI GUIDE

アウトメカニカ フランクフルト 2026
欧州の整備機器を視察



REPORT

世界最大級の自動車産業見本市「アウトメカニカ フランクフルト 2026」が 2026 年 9 月 8 日（火）から 12 日（土）の 5 日間、ドイツのフランクフルトで開催されました。

出展社数　約 4,400 社、来場者数　約 11 万 2,000 人と世界各地の自動車業界関係者が参加しました。

今回株式会社バンザイからは 5 名が参加し最新の整備機器や業界のトレンドを視察しました。




アウトメカニカ会場の「メッセ フランクフルト」

アウトメカニカでは整備機器はもちろん自動車部品やカーラッピングなど、車両に関する様々な商品が展示されています。展示品も多岐にわたるため 1 日で全てを見学することはできません。今回は整備機器を重点的に 2 日間に分け見学しました。

ロボット機器

ドイツの自動車整備機器メーカー「MAHA」のブースでは各種検査機器が展示されていました。

従来型の検査機器はもちろん、参考出品として作業の効率化を図る検査用ロボットも展示されていました。検査用ロボットでは車両ボディの損傷やヘッドライトの状態などを自動で計測できます。このため車両が入庫後、所定の位置に停めておくことで、自動的に入庫検査が行えます。




乗用車／大型車 それぞれ専用のロボットが用意されていました。


MAHA ブース以外にも、部品を積載した状態で作業者を追従する効率化ロボットなどが展示されていました。

汎用スキャンツール

直近日本メーカーの車両でも耳にすることが多くなったセキュリティゲートウェイ（以下、SGW）について、欧州では日本の一歩先をいっているため、既に多くの汎用スキャンツールメーカーが対応となっています。

このため各スキャンツールメーカーのブースでは車両に「SGW　UNLOCK」の文字を貼り付け自社のスキャンツールが SGW に対応できることをアピールしていました。



SGW 対応を案内


エイミングデモ

スキャンツールとあわせてエイミング関連機器を展示するブースも多々見受けられました。


スキャンツールを使用する上で欠かせなくなった安定化電源の展示も。

※写真は安定化電源メーカー「シューマッハ」のジャンプスターター

リフト展示

展示会規模が大きいこともあり、日本で開催されているオートサービスショーよりも多くのリフトが展示されていました。リフトアップする対象車両にも差異があるため、日本で販売されているリフトよりも一周り大きいリフトも用意されていました。



各種リフト

設置型リフトだけではなく、移動式リフトも展示され、屋内外で実車を使用した展示が行われていました。




移動式リフトの展示

モータースポーツ展示

整備機器や部品等の展示以外にも、屋外ではモータースポーツに参戦している車両が展示されていました。ビジネス目的で訪問している方が大半ですが、多くの人が足を止め写真撮影をするなど、こちらの展示も注目を集めていました。

また広場ではアスファルトを打設し専用コースが用意されていました。コースでは定期的にカートや学生フォーミュラマシンがデモ走行を披露していました。


レーシングカー


専用コース

メルセデスベンツ　ミュージアム見学


ミュージアム外観

アウトメカニカ見学後は参加者 5 名にてドイツ シュトゥットガルトにある「メルセデスベンツ ミュージアム」を訪問しました。

アウトメカニカの開催地であるフランクフルトからシュトゥットガルトまでは電車で約 2 時間の距離ですが、各国のアウトメカニカ参加者が展示会見学後ミュージアムを訪れていました。

ミュージアムの建物は円状になっており、入館後はエレベーターで最上階まで移動し螺旋状のスロープを下りながら展示品を見学する独特なスタイルとなっています。

館内では初期の車両や、最新のレーシングカーまで幅広く展示されています。車両以外にも飛行機など、1500 点以上の展示品があり、今に至るまでの自動車の歴史、進化を学ぶことができます。


音声ガイド

各言語に対応した音声ガイドを借りることができるため、各国から訪れた人も各展示の詳細が分かる様になっています。


飛行機の展示も


商用車


初期の車両


過去のエンブレム


レーシングカー


ミュージアムにはディーラーも併設

編集後記　＜加藤＞



先日、自動車アフターマーケット分野における世界最大級の展示会である「Automechanika Frankfurt 2026」視察のため、ドイツ・フランクフルトへ出張して参りました。

海外の展示会を視察するのは今回が初めてということもあり、広い会場に世界各国のメーカーが集い、最新の製品や技術が展示されている様子に圧倒されるとともに、世界規模の展示会ならではのスケールを実感しました。

事前に訪問したいメーカーをリストアップし、会場内を運行する循環バスも利用しながら、効率よく各ブースを回ることができました。実物を確認したり、直接説明を受けたりすることで、カタログや資料だけでは分からない貴重な情報を知ることができました。

また、国内の販売代理店を通じて、日頃よりお世話になっているメーカーの方にご挨拶する機会にも恵まれました。簡単な英語とジェスチャーを交えながらの交流ではありましたが、実際に顔を合わせて話すことで、身近なつながりを感じることができました。

今回の視察で得た新しい知識や情報をこれからの業務に活かし、皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

今後も、より良い製品と情報をお届けできるよう、積極的に情報収集・発信を続けてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

BANZAI NEWS（通巻340号）　監修・発行/株式会社バンザイ　BANZAI NEWS編集室　東京都港区芝2-31-19　電話03-3769-6880
2026年10月1日発行　https://www.banzai.co.jp　E-mail:eigyo@banzai.co.jp　編集・印刷/株式会社萬歳パブリシティ